

第7回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

令和3年11月11日（木）19：00～20：30

2 場所

島田市役所 4階 第三委員会室南・北

3 出席者

委員：池上委員（会長）、村田委員（副会長）、磯崎委員、大池委員、小栗委員、河村委員、北川委員、鈴木(史)委員、鈴木(将)委員、中根委員、萩原委員、原委員、松本委員、渡瀬委員

市側：牛尾副市長

事務局：今村市長戦略部長、中村戦略推進課長、興津係長、中村主査、永田主事、酒井主事、榊原主事

傍聴者 2人

4 内容

（開会）

（会長あいさつ）

- ・今回は情報量が多い資料をもとにするので、焦点を絞って議論ができればと思っている。前回、島田市の未来をどう考えるかという話が出たが、高校生ワークショップなどで検討された内容を反映したイラストが今回出てくるので、それについても皆さんと意見交換をしたい。

（議題）

(1) 後期基本計画の素案について

資料1に基づき、中村主査、榊原主事より説明

（前回の振り返り、資料1の修正点、新レイアウトの案、2050年の未来の島田市）

【質疑応答】

会長：今日新たに配付された資料2は、資料1が今後どのように変わっていくかという一覧である。そして緑色ベースのものが新レイアウトのサンプルになる。島田市の未来予想図については、皆さん色々なお考えをお持ちだと思う。まず、「はじめに」の部分について、ご質問・ご意見をいただきたい。

A 委員：10ページの表について、「健康・子育て環境のポジショニング」で、病院や診療所の件数の順位が書いてある。島田市は総合病院1件しかないため順位が23位

となっているが、これは病院数で比較するものなのだろうか。病床数の方が規模に応じて実態を表しているように思う。

また、19ページ以降の施策の評価のグラフについて、前期の計画では1つの事業が1つの点で表されていて、そのポジショニングが分かる。

今回はその後の流れが線になっているが、ここまで丁寧に流れを示す方がいいのか、現時点のポジショニングを示す方がいいのか。この表が少し分かりにくいと感じた。

会 長：2点ご指摘をいただいた。1点目は、病院の病床数での比較ができないか。2点目は、19ページ以降のマッピングについて。19ページ上の【グラフの見方】だと分かりやすいが、1枚の図の中に3つ4つ違う推移があると、煩雑で見にくいのではないかと感じる。もっとシンプルに表す方法もあるのではないかと感じる。

事務局：10ページの病院の数については、前期の計画に同じように記載しているため、後期についても同じデータにしたいと考えている。
19ページ以降の経年変化については、前期計画期間の取組の結果、市民の満足度・重要度がどのように動いてきたかを矢印でつないだもの。
確かに見にくいという点は否めないが、変化に意味があるということをご理解いただければと思う。

A 委員：島田市の総合病院が改修されて綺麗になったのに、ずっとこの順位が23位というのは少し可哀想に思う。

B 委員：病院によって規模が変わるので、病床数という視点で表すことは次回以降取り入れてみてもいいのではないかと感じる。とても面白い視点だと思ふ。
病床数も、病院の中で色々と違う。何をもちょう病床数とするかも議題に上がりそうだと感じる。

会 長：2つ目のご指摘に関する回答では、推移が大切で変化を示したいとのことだった。変化を示すことが大事という点も了解したとして、変化を一つひとつ丸で示す必要があるのか。つまり最初と最後だけ示して、ざっと矢印にする方が分かりやすいという意見も出てくるのではないかと感じる。
平成29年度調査と令和3年度調査で、2点で矢印を結ぶということは、選択肢として考えられるか。

事務局：同じ方向に推移していれば最初と最後の2点だけでもよいが、一度下がってから回復したものもあるのでこのように示していきたい。例えば令和3年度の矢印の丸をなくすなど工夫を考えてみたい。

会 長：5つの丸をすべて同じ大きさにしなくても、途中経過をもう少し小さな丸にすれば、最初と最後の丸が目立つと思う。ご検討いただければと思うがいかがか。

事務局：検討する。

C 委員：素案の1枚目に「はじめに」がある。市長挨拶が入ると思うが、「はじめに」ではなくて「この先の島田へ」「市民とともに」など、変化をした方がよいと思う。

事務局：ぜひこの「はじめに」は変えていきたい。

D 委員：11ページについては前期と同じ形で書かれている。「産業等の状況」の第1次産業については「20年間で4割以上減少しています」となっていて、第2次産業と第3次産業は「23市中何番目」となっている。第1次産業も23市中の順位が出た方がいいのではないかと思う。

事務局：第1次産業が何位かという資料を今持ち合わせていないが、順位を入れる方向で検討していきたい。

E 委員：21ページ4番「環境・自然について」のところで、「ごみ・リサイクル対策は、調査開始以降、すべての調査項目の中で最も高い満足度を維持しています。」に違和感を覚えた。満足度が高いからといってごみ問題がうまくいっているというものではないと思う。

職業柄感じることだが、海外からくるお客様と日本人のお客様で出すごみの量が大幅に違う。感覚的なものであって数値で示せるものではないが、ヨーロッパの方は特にごみが少ない印象を受ける。

満足度が高いというよりは、市民のごみに対する意識がまだそれほど育っていないのではないか。この書き方について、うまくいっているのだという印象を与えない書き方がいいのではないかと思うがいかがか。

事務局：ご指摘をいただいた箇所は修正を予定しており、資料2の3ページに記載がある。委員のご指摘に対応している修正内容にはなっていないので、「満足度が高い」＝「ごみに対する意識が高い」ということではない旨を加えたい。

会長：事務局の回答にあったように変更するだけでは実は全く答えていない。「ごみを出さない」という意識を醸成していくために、何か計画の中で、書き込める部分はないだろうか。何かアイデアはあるか。

E 委員：今すぐにアイデアは浮かばないが、「自分のごみを出す感覚がおかしいのかもしれない」と海外旅行に行ったときに気づくなど、何かきっかけがないと変わらない。そのようなきっかけを提起するような企画または場所があると、市民の皆さんも少し意識が変わると思う。

事務局：資料1の環境分野のページでは、116ページから、エネルギーの地産地消、省エネルギーの推進、資源のリサイクル、ごみの減量、環境教育・学習と5つの小柱を設定している。

また、119ページにはSDGsコラム「ごみの量を減らそう」を掲載し、SDGsに結びつけながら、ごみの減量を市民の皆さんに呼び掛けている。

また、先ほどの付け加えになるが、資料2の3ページにて「利便性と環境負荷の低減のバランスを考慮しながら対策を展開していく必要があります。」と修正する予定となっている。

会長：「未来に向けて」については資料1の30ページからとなる。32・33ページのイラ

ストも含め、皆様のご質問・ご意見をいただきたい。

F 委員：このイラストを見ただけではよく分からない。事務局の説明を聞いて内容が伝わってきたので、その説明を入れてほしい。

色を塗って完成だと思うが、やはり目を引くイラストがいいと思う。ここに人気のある「ゆるキャン△」や「ラブライブ！」が入っていれば、見る人は見る。これだけだと印象が薄い。もう少しプロの要素を入れてほしい。

事務局：「ゆるキャン△」など既存のデザインを入れることは、著作権の問題もあり難しいと考える。

このイラストは、子育て世代ワークショップ、高校生ワークショップで出たご意見から、プロのデザイナーが作成したもの。描く要素の前提がある中でイラスト化したものになっている。

F 委員：例えば小さな字で「子育てロボットを見つけてみよう」など、皆が見つけれられるように記載するのはどうか。

会長：「ウォーリーを探せ」のように、じっくり見たくくなるような仕掛けを入れてみてはどうかということ。

事務局：デザイナーと相談しながら対応を考えてみたい。

G 委員：総合計画後期基本計画は4年の計画なので、4年後の未来の島田市と、2050年の未来の島田市を比較できるようになったら面白いと思う。

結構ごちゃごちゃしているので、もう少しあっさりしてもいいのかなと感じる。

会長：例えば左側が、この計画が完遂するときの近未来、それから2050年の少し遠い未来を比較してみたらどうかというご意見である。

事務局：まず4年後の未来の絵について、絵で表した中で現在とどのくらい変わることができるのかが少々難しいと感じた。

また、このイラストは第2次総合計画の最終年度である2025年より未来の話になっているので、目次においても基本構想よりも前の段階に位置付けて、計画期間よりももっと先のことを載せている。

H 委員：パッと見た感想としては、少しごちゃごちゃしていて、何を強調したいのかが分からない。事務局の説明を聞いて、学校の中で何かをやっているなど部分的に分かる状態。やはり「見て分かる」ということが大事ではないか。もう少しすっきりした形でできれば見やすくなると思う。

会長：おそらく多くの委員の皆さんが、情報がたくさんありすぎて何がメインなのか、そもそもどんな項目があるのか数えきれないという印象を持ったのではないだろうか。もっとすっきりしてはどうかというご提案だが、逆に、このような絵にした意図について事務局に伺いたい。

事務局：意図としては、2つのワークショップで出た意見をなるべく多く盛り込みたいということと、明るい未来・楽しい未来を描きたいということで、ここに出てくる人が皆笑顔でいること。

ごちゃごちゃしすぎているというご意見を受け、絵を少し間引くことをデザイナーと検討してみたい。

また、資料1の260ページ、261ページが、子育て世代ワークショップ・高校生ワークショップの様子を表したものだが、特に261ページのスマホ画面の写真については、高校生が絵で表した2050年の未来の記事である。よく見ていただくと、この要素がイラストに反映されていることが分かるかと思う。

会長：意図が分かった一方で、やはり情報が多すぎて何を言いたいのか分からないというのもおそらく皆さんの共通した意見だと思う。

I 委員：我々が今持っている情報で10年・20年後を想像すると、例えばドローンでタクシーや宅配、移動する時代だろう。あるいは食糧危機に対して人工栽培している、クリーンエネルギーでもう発電をしなくて済むなど、自分から見たらもっとそのような情報が入っていてもいいのではないかと思う。

また、例えば「ロボットが子どもと遊んでいます」などの言葉を添えた方がいい。先ほどの話にもあったように、盛り込みすぎている。一生懸命隙間を埋めようとした感覚を受ける。

会長：「高校生ワークショップ、子育て世代ワークショップで出たもの」という大枠の中で描くとこのようになる。一方で「2050年未来の島田市」という言葉を見て考えると、エネルギーや移動、物流の問題といった点が描かれていないという指摘である。

事務局：少し絵を間引いてすっきりさせながら、この会議でいただいた御意見を加えることも検討したい。

C 委員：子育て世代と高校生が描くとやはりこういう絵になると思う。とてもかわいく自分としては好きである。ただ、このページにこのイラストがくるのかなと感じた。例えば「夢」という括りで前のページの方に持っていくなど。「未来に向けて」のページの編成が少し違うのだろうと思う。

会長：高校生ワークショップや子育て世代ワークショップを実施し、そこにたくさんの方が時間を割いて足を運んでくださった。そこで出てきたご意見を今回の計画の中に何らかの形で、ポジティブな未来を描く一つの方法として盛り込みたい。その気持ちは皆さん共通している。

それが「2050年未来の島田市」の中に入ってくると違和感がある。例えば、表紙の次の見開きのページにこのイラストがあると、何か面白そうだと思ってもらえるかもしれない。

事務局：「未来に向けて」の次から「基本構想」「基本計画」と始まっていく。したがって、事務局としては本編ではないという認識でいる。

また、資料1の目次にある「未来に向けて」について、「未来につなぐ3大戦略」、「2050年の未来の島田市」、「島田市におけるSDGs」、この並びを、資料2の修正案とおり、「未来につなぐ3大戦略」、「島田市におけるSDGs」、「2050年

の未来の島田市」に変更し、並び順の違和感を解消したいと考えている。

会 長：今の事務局の回答は、あくまでも並び順は変えるけれど、市長挨拶の前に持つていくことは考えられないということだが、この審議会でそのような意見もあったということはぜひご検討いただければと思う。

子育て世代ワークショップ・高校生ワークショップで出たものを本当に尊重するのであれば、表紙を開いて絵があるというものも一つの方法かなと思う。

仮にその方法を取ったとすると、次に「2050年未来の島田市」は何をどう描くかという問題が生じる。2050年のイメージ、ドローンで物が運ばれている、あるいはデジタルトランスフォーメーションでどのような未来があるか、そのような項目が上がってくる描き方もあるかもしれない。

2050年の島田市の発想をもう1回ガラッと変えて、考え直してみる余地はあるか。

事務局：仮に、今ご意見いただいた形で、市長挨拶の前など別の位置にこのイラストを掲載するとなった場合、この「未来に向けて」の章における「2050年未来の島田市」に別の絵を載せる考えはない。

会 長：そうするとこれはかなり大きな問題提起である。ここで結論を出すことは難しいので、この件はここまでにしたいと思う。

「未来に向けて」の他の内容について皆さんからご意見等があればいただきたい。

J 委員：「島田市におけるSDGs」で、色々と具体的な取り組みについて書かれていて面白いと思う。SDGsの考えを市民の皆さんにも普及するという意味では、とてもいいことだと思っている。

ただ、「何をしたらSDGsにつながるのか」について、具体的な部分があるのもっといいと思う。

それぞれ1から7の政策分野に合ったコラムが一つずつ載っていてとても分かりやすいが、政策分野2だけ「思いやり」「助け合い」という非常に抽象的な表現になっているので、ここがもう少し具体的になるといいと感じた。

政策分野2は、教育の中での地域とのつながりや、地域の皆で子どもを育てるという部分があるので、例えば「挨拶をしあう」「さわやかな挨拶が通い合う」など、具体的な部分が入っているととても分かりやすい。挨拶すればそれがSDGsにつながっているのだなと市民の皆さんにも分かってもらえるのではないかと思った。

もし可能なら、35ページの政策分野の表を少し縦長にして、「政策分野1ではこのような具体的な活動をしましょう」であるとか、SDGsのコラムの題名などを横に載せれば見やすいのではないかと思う。

会 長：SDGsという言葉は今かなり広まっているが、それを意識したとき、自分たちは具体的に何をすればよいのか。7つの政策分野に対して、具体的なアクションを書き込んでみてはどうかという提案である。

事務局：「島田市におけるSDGs」のページについては、現状でもかなり文字量が多くなっている。

委員からご指摘いただいた、SDGsに向けた具体的な行動については、各政策分野に一つずつの掲載となっているが、コラムの方で市民の皆さんに見ていただければと考えている。

政策分野2のSDGsコラムについては、今ご意見いただいた内容に変更できないか、持ち帰って検討したい。

会長：次に基本構想の部分をご覧いただき、改めて思ったことなどがあればご発言いただきたい。

D 委員：基本構想で、政策分野一つに1ページずつ割り当てられている。前期の場合、政策分野1、2が同じページに掲載されていた。

48、49ページは下にかなりスペースがある。ここには何か入る予定があるか。なければこのスペースが広すぎる気がするがいかがか。

事務局：この空白の部分に何かを入れる予定はない。前期計画では、7つの政策分野がちょうど4ページに収まる文字量だったが、今回は収まらない。少し行間を詰めるなどの工夫をして、うまく収まるよう検討したい。

会長：デザインについて、皆さんからご意見をいただきたい。

私たちが見てきたこの資料1は、前期計画のレイアウトに沿った形で非常にたくさん色が使われている。例えば74、75ページを開いてみると、ピンクが基調でありながら様々な色が入っている。

それに対して今回、A3判の資料は、SDGsのアイコンはそれぞれの色があるけれども基本的にその政策分野のテーマカラーをベースとして統一感を出している。

また、よく見比べると分かるが、本文の文字の大きさが若干小さくなっている。余白が十分あるので、そんなに読みづらいということはないと思う。

階層構造が明確なつくりの方が、ページ全体を見て内容が分かって、次のページを見たくはないかと私自身は考えているが、皆さんのご意見はいかがか。

K 委員：資料1は色を使いすぎていてインパクトがない。こちらのA3のすっきりした色づかいの方が見やすいし、いいのではないかと思う。

L 委員：先ほどのご意見にもあったが、余白がすごく多いと感じていた。それが新しいレイアウトになったとき、全体が本当に白いページになってしまう。もう少しレイアウトを詰めて文章量が入ってくればよいが、余白が多い中で色がさらに少なくなると、なんとなく寂しい印象がある。レイアウトを変えることで全体的に詰まっていくのだろうとは思っているが、このままだとかなり白い部分が多い印象になる。

事務局：今は空白が多すぎるので、新しいレイアウトに移行する作業とあわせて、この

空白を詰めていきたい。それでもページが半分空く場合には、関連する写真を掲載して、大きな空白にならないようにしたい。

- I 委員：10、11ページの表は文字が小さくてほとんど読めない。余白があるのなら文字を大きくしてほしい。
34、35ページのSDGsのアイコンの中の文字も見づらい。パッと見て分かるようになるといい。
- 事務局：図表の見にくさについては、先に行われた庁内の会議でも意見があった。新レイアウトへの移行に合わせて、なるべく見やすいように文字等の大きさを調整していきたい。
また、34、35ページのSDGsのアイコンについては、勝手に変更できないアイコンであるので、中の文字を大きくするなどの操作はできないことをご理解いただきたい。
35ページの色や数字を手掛かりに、34ページの方で確認いただくということをご理解いただければと思う。
- M 委員：「未来につなぐ3大戦略」の中でDX、デジタルの力という話が出た。このような説明文や図表については、余白にQRコードを入れて、それを読み込むことによって映像や音声、データが見られるようにしてはどうか。
デジタルの活用に関する戦略を立てている一方で、これはアナログの小冊子となっているので、若者も見分ける冊子になっていけばいいと思う。
島田市のLINEはすごく便利で、活用させてもらっている。だんだんとそういう時代になってくるのかなと感じる中で、せっかくDXの戦略を立てているなら、余白やデザインの空いたところにQRコードを入れて読み込んで、音声データ、映像データを見ることができるよう技術があったらいいと思う。
- 会長：今の話は、ユニバーサルデザインという考え方にもつながっていくと思う。視力の低い方や高齢の方など、見たいところを拡大して見ることができる。
そのような工夫をする発想を事務局は持っているか。
- 事務局：素晴らしい御意見をいただいたが、大変申し訳ないことに今回の計画に今から入れ込んでいくことは難しいと考えている。
次の計画を作るときには、そのようなことを念頭に置きながら作り込んでいきたい。
ホームページにはもちろん総合計画のデータを載せるので、そちらでご覧いただくことは可能である。
また、35ページのSDGsの小さなアイコンについては、今一度持ち帰ってデザインを検討したい。
- J 委員：SDGsについては、もう1ページ、36ページまでは使えないか。もし使えるのであれば、35ページには、下のSDGsの表を縦長に1ページにして、次の

ページで「皆で始めようSDGs」の具体例を付け加えて載せれば、もう少し大きくなるのではないか。

F 委員：SDGsの表を見開きで1ページにして、次のページに文字を載せるはどうか。見開きの方が分かりやすい。

会長：お二人のご発言が共通しているのは、35ページの下の表をもっと大事にしようということ。「SDGsをやっているっぽい」という見せ方をしているだけではダメで、これを読んだ市民が「この件はSDGsのこれと合致するんだ」という気持ちになってアクションを起こすことが目的だとすれば、インパクトのある見せ方をして意識を涵養する方がいいのではないかという意見である。

事務局：あと1、2ページを使って、しっかりと見やすいように表記していきたい。

F 委員：すべて事務局が行うのは難しいと思うので、やはり専門家に見ていただくのがいちばん早いのではないか。

会長：例えばこの35ページ、右上から2つ目、政策分野4の上から、「みどり豊かな自然を守り育む」の「む」だけ次の行に行っている。あるいは政策分野1の最初の「ここに住むすべての人の安」。パッと見て読めるような形に改行するとよい。そこまで含めてぜひこの35ページの表を、「島田市は本気でSDGsやります」、「7つの政策分野にリンクしています」、「皆さん、がっちり見て、がっちり動いてください」というツールにしたい。皆さんそうお思いだと思う。それでは残り時間が少なくなってきたので、全体を通してご指摘、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

C 委員：140ページと141ページには何が入るか。

事務局：まだ整っていない状態での資料の提示となり申し訳ないが、この2ページは余白であり、新レイアウトへの移行に伴い無くなる。

会長：今日配付された資料2は、今私たちが見ているものが修正前として、庁内での検討の結果、右側の修正後のように変えていく予定であるという一覧になっている。この修正後の書き方でよいかどうか。ここも見ていただければと思う。

I 委員：40ページと158ページを見ていただきたい。どのようにこれを使って、意識して進めていくかということになるが、40ページ「将来像を実現するための役割」の「行政」のところで「市民活動を支援する中で」とある。行政が市民活動を支援するのは少々上から目線的な感覚であるように感じた。

そう言いながら、158ページの「みんなの協力でまちをつくる」の基本的な施策の方向性では、「まちづくりは市民の手の中にあるという意識を醸成し、これからの島田市を担う若者の力を積極的に取り入れながら、多くの市民がまちづくりに参画する「協働のまちづくり」を進めることで、暮らしの満足度を高めていきます。」とある。

行政が何でもやるという時代ではないので、市民団体や市民と一緒にやってい

く、何かプロジェクトを作って進めていくという意識が必要だろうと思う。

事務局：40ページについては、8年間の基本構想の部分であるので、4年前に掲載したものを基本的にそのまま残している。

158ページについては、今回の後期基本計画を作るにあたって書いたものなので、市民協働ということが一步前進しているような表現になっているかと思う。したがって、40ページの基本構想の表現を見直したい。

L 委員：資料2で、めざそう値の数字をできるだけ丸めて、小数第一位を0にしたところもあれば、逆に小数第一位に数字を入れたところもある。

目標値なので、ある程度、0.何パーセントというものはあまり意味のない数字かなと思う。クリアしなければいけない数字と考えると小数第一位まで数字が入るものなのだが、目標値と考えればもう少しきれいな丸めた数字の方に統一した方がいいように思う。

小数第一位が0になっているところと、そうでないところがあるので、なぜこのように直したのか。

会長：例えば資料2の11ページを見ると、上から3つ目の項目は50.0が49.9になっている。上から2つ目は79.9が80.0になっている。このあたりの統一感がないのはなぜか。できれば丸めた方がいいのではないかというご意見である、

事務局：令和2年度の数値については現状の数値であるため、端数があってもいいと考えている。

目標値について、きれいな数字になっているものと細かな数字になっているものがあるが、担当する部署が目標値を設定するにあたってそれぞれ根拠を持っており、それを尊重している。

委員がおっしゃるように、根拠がまずあって、そこからきれいな数字にまとめるということについて検討したい。

会長：目標値という数字の考え方を庁内会議で一致させて、その上で丸めてもいいものであれば丸めていく、逆に丸めるものではないということであれば無理に丸めない。統一した考え方で数字を設定することができれば、違和感はなくなるのではないか。

(その他)

(1) 次回総合計画審議会の開催について

中村主査より連絡

【質疑応答】

・なし

以上

20:30会議終了